

平成 24 年度 全国開拓青年・女性研修会 in 福岡 開催結果（概要）

平成 24 年 11 月 20 日から 22 日にかけて、開拓三団体（全日本開拓者連盟、全国開拓農業協同組合連合会、当協会）の共催により、全国開拓青年・女性研修会を開催しました。

初日の 11 月 20 日は、ヒルトン福岡シーホークホテル（福岡市中央区）にて、料理研究会の山際千津枝氏、東京農工大学大学院の野見山敏雄教授による講演会を開催しました。

山際氏は福岡県を中心に活動する料理研究家で、執筆活動やテレビ・ラジオ出演など、広く活躍なさっています。

講演は「人生を美味しく食べよう～私の夢の叶え方～」と題し、夢を叶えるテクニックとして、夢は小さくても具体的に持つことが大切と語られました。また、自身の経験を交え、小さなことでも続けていけば大きな変化が生まれるときが来るという「ティッピングポイント」、意味ある偶然の一致である「シンクロニシティ」、モノだけでなくエネルギー（気持ち）の交換としての「ギフト」の三つを生活の上で大事にすること、これらが夢を叶えるまでに大きなポイントになることをお話しされました。



料理研究家の山際千津枝氏

野見山教授は、福岡県出身で、同県嘉穂農業改良普及所、同県農業総合試験場を経て、現在東京農工大学大学院にて、農産物の生産と流通について研究をされています。

講演では「これからの農畜産物流通～地産地消と 6 次産業化～」と題し、地産地消という取り組みの重要性、長短所、6 次産業化を進める理由、その課題等をお話しされました。

教授は、6 次産業化推進の狙いは農林漁業の成長産業化だが、農業の工業化・商業化を狙うためには、現在の 1 次産業には、2 次・3 次産業のノウハウが不足していると指摘。国が 6 次産業化事業者を支援するファンドを創設したが、融資希望者はフードビジネス等の非農業者ばかりという現実に触れ、今度は食品工業・商業の農業化、つまり、2 次・3 次産業の 1 次産業化が進む可能性を否定できないと懸念されていました。



東京農工大大学院の野見山敏雄教授

一方、地産地消には生産者・消費者互いにメリットがあると話し、農畜産物直売所が持つ役割として、地域農林資源の管理、地域社会関係や地域経済の活性化等、多様な役割があることを説明され、農畜産直売所を始めとし、地産地

消を推進していくことの重要性を述べられました。

しかし、我が国の農畜産直売所は儲け主義に偏向しているように見えるとし、儲けだけでなく、潤いのある暮らしと地域の未来に貢献できる地産地消に進んでほしいと話されました。

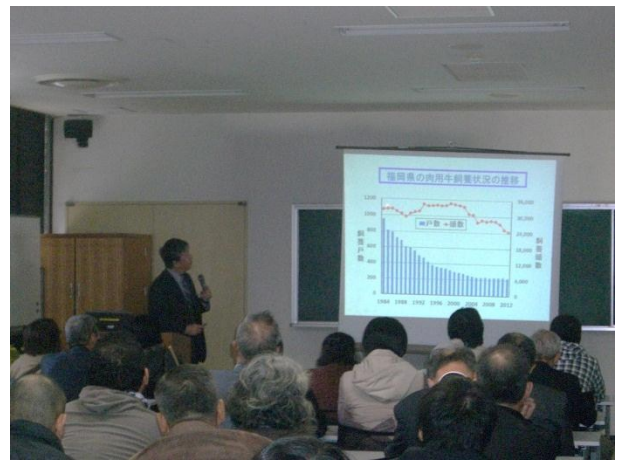
翌日の 21 日は、福岡中央卸売市場食肉市場（福岡県東区）と福岡県農業総合試験場（筑紫野市）を視察しました。

食肉市場では、施設の概要について案内を受けた後、牛・豚の加工ラインを視察しました。参加者の中には食肉加工現場を初めて見る方も多く、皆さん興味津々な様子で見入っていました。



福岡中央卸売市場食肉市場

農業総合試験場では、同試験場が試験している強化哺育を活用した肉用牛肥育技術について聴講しました。高タンパク、低脂肪の代用乳を多給することで、子牛の発育・発達を加速する技術で、肥育技術の向上に寄与するものです。肥育牛生産などを行っている参加者は、盛んにメモを取る姿が見られました。



福岡県農業総合試験場

本研修会には全国から総勢 102 名の開拓関係者が集まり、開拓者間の交流も図られ、大盛況のうちに終了することができました。